

離床センサー

vol.97 2017.6

現場レポート!



離床センサーをお使いの現場から、様々な工夫をご紹介します!



兵庫県・H病院 様 ● 製品：コールマット・コードレス
＋ポケット受信器（ハイパー中継ボックス）

日中はナースコールで報知。夜間は専用受信器に！
時間帯別で使い分け、異なる方法で報知する工夫をご紹介します。

課題 転倒リスクの高い対象者にセンサーを設置していますが、院内には PHS がなく、
詰所にスタッフの多い日中はセンサーをナースコールで報知し対応しています。夜間帯は
スタッフが少なく詰所に居ないこともあり、センサーのコールに気づかないことがあります。

対策 夜間のみ、センサーはそのまま中継ボックスを専用受信器タイプに切り替え
スタッフにポケット受信器（携帯受信器）を持たせることで、どこに居てもセンサーコールを
できるようにしました。



効果 報知方法を専用受信器に変更することで、離床センサーの鳴り分けができます。
また、院内 PHS がなくても携帯型の受信器を持つことにより、転倒や離棟リスクの
高い対象者の行動を逃すことなく介助できるようになりました。